

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2021/11/01号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

今週の11月FOMCに注目

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



ゴールドは金曜日に再び急落。ドルインデックスが0.9%上昇、ゴールドが1%の下落。ドルの動きに素直に反応した動きとなりました。1794ドルから1772ドルまで急落、その後1782ドルまで戻して一週間が終わりました。1800ドルを中心にした未だにもみ合いが続いています。11月3日（日本時間4日の早朝）のFOMC終了後の政策金利発表とそれに続く議長記者会見で、どのような発言がなされるか、がマーケットの最大の関心事となっています。現在はそれを控えて、3つのマーケットフォースがせめぎ合っていると思います。その一つは現在のインフレの上昇はあくまで一時的なものであり、来年には収まり、FRBのタカ派的な傾向は変わらずテーパリングの開始を発表し、来年には終了、金利を上げるという見方で、ゴールドは下げるといもの。それに対して、このインフレは一時的なものではなく、経済のスローダウンも相まってFRBは現在の金融の緩和政策を簡単に変更できる状況ではなくなったと見て、よりハト派な路線を選ぶといもの。この二つの相対する見方がゴールドを1800ドルを挟んでのもみ合いを生み出しています。そしてそれに加えてこの動きに乗った多くのヘッジファンドが1800ドル超えを売り、1800ドル割れを買うというレンジ取引に徹しているのが第三の勢力となっています。それにより、このレンジ取引がより強固なものとして維持されているというのが現在のマーケット。パウエル議長がどれくらいのトーンでテーパリングの話をするのか、今週のマーケットはそれにかかっていると断言してもよいでしょう。現在のレンジ1770-1820ドルのレンジをどちらかに抜ける可能性があります。もしここを抜けなければ年末まで大きな動きは期待できないかもしれません。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

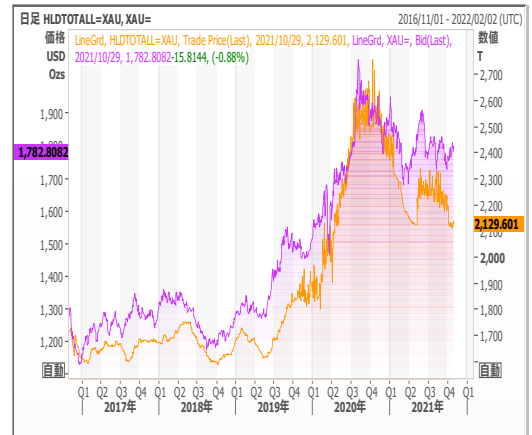
【マーケット・トピック】

ゴールドの需要と供給 (4)

今回からはゴールドの需要を見てみましょう。ゴールドの需要の最大の分野は宝飾品です。2021年の予想では1815トン。その次の分野は投資です。現物とETFを合わせると1246トン。中央銀行の買いが420トン。一方産業の材料として使われる加工用需要は324トンと需要全体の7%に過ぎません。これは、貴金属の中でもゴールドの大きな特徴となっています。ゴールド意外のシルバー及びPGM(白金族)はあくまで「産業用メタル」としての側面が強く、シルバーはその需要の50%が産業用需要、PGMではプラチナの65%の需要が工業用需要そのうち40%が自動車触媒、パラジウムにいたっては需要の80%が自動車触媒でありその他の産業用需要を含めると90%以上になります。同じ貴金属の範疇にあっても、ゴールドだけは全く違った需要構造があります。その物質特性からの産業用の需要よりも圧倒的にそのままの形での需要、つまり、宝飾品や投資用の地金やコインなど、ゴールドをゴールドのまま保有する需要が圧倒的に大きいのです。宝飾品もインドや中国ではほぼ純金投資と考えると、ゴールドは貴金属のなかでも特別に「投資用メタル」だということができます。中央銀行はゴールドを買って保有しますが、シルバーやプラチナ、パラジウムを資産として大量に保有することはありません。それが端的な証明だと言えるでしょう。

(宝飾需要)

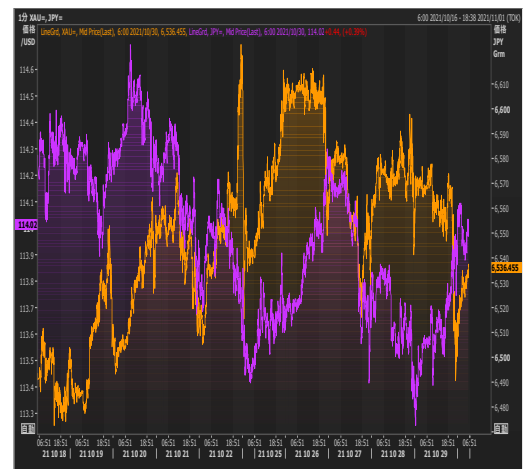
2020年は過去10年間でも最も宝飾需要の少ない年でした。これはコロナによる影響で最大の市場であるインドそして中国の都市ロックダウンにより、宝飾品どころではなくなったからです。2021年はその反動で需要は大きく伸びています。宝飾品の最も大きな市場は中国とインドです。コロナ前の2019年の需要量は中国638トン、インドは545トン。第三位は米国の131トンであり、その他の国々は50トンを超える国はありませんでした。ちなみに日本は17トン。中国とインドがいかに巨大な市場かわかります。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することによるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

